

プログラム

1日目 3月30日(月)

10:00-10:10 シンポジウムの趣旨説明 (茂木耕作 海洋研究開発機構地球環境観測研究センター)

セッション1 大は小を兼ねるのか:ダウンスケーリング

10:10-10:20 ダウンスケーリングの基礎 (稲津将 北海道大学大学院理学研究院)

10:20-10:30 ダウンスケーリングと気候研究 (佐藤友徳 東京大学気候システム研究センター)

10:30-10:50 作物収量予測における統計的ダウンスケーリング手法の役割と課題 (飯泉仁之直 農業環境技術研究所)

10:50-11:10 中部山岳域のフェーンにおける降水の寄与 (石崎紀子 気象研究所)

11:10-11:30 関東における過去30年の夏季気温変化の要因分析 (足立幸穂 筑波大学)

11:30-11:50 地域気候モデルによる力学的ダウンスケーリングの現状と課題 (大楽浩司 防災科学技術研究所)

11:50-12:30 議論

12:30-14:00 昼休み・昼食

セッション2 大気エアロゾル:気候影響評価の不確定性打開へ向けた新展開

14:00-14:10 セッションの趣旨説明とエアロゾルモデルの現状 (竹村俊彦 九州大学応用力学研究所)

14:10-14:20 エアロゾル観測の現状と問題点 (青木一真 富山大学大学院理工学研究部)

14:20-14:50 ライダーを用いたエアロゾルの観測研究 (西澤智明 国立環境研究所)

14:50-15:20 エアロゾルとデータ同化 一予報・再解析・発生源逆推定一 (弓本桂也 九州大学応用力学研究所)

15:20-15:35 広域雲解像モデルによって表現できる対流雲とエアロゾルの相互作用 (三井達也 東京大学気候システム研究センター)

15:35-16:00 議論

16:00-16:15 休憩

セッション3 層積雲:気象と気候をつなぐ『失われた環』

16:15-16:25 セッションの趣旨説明 (増永浩彦 名古屋大学地球水循環研究センター)

16:25-16:45 雲タイプの観点からみた海上下層雲量と温度逆転層強度の関係 (神代剛 京都大学生存圏研究所)

16:45-17:05 Marine Stratocumulus Cloud-Top Entrainment (山口貴将 コロラド州立大学大気科学部)

17:05-17:30 議論

2日目 3月31日(火)

セッション4 観測とモデルのシナジー:データ同化の未来

10:00-10:05 セッションの趣旨説明 (三好建正 メリーランド大学大気海洋科学部)

10:05-10:25 LETKF を用いた日本域の豪雨再現実験 (瀬古弘 気象研究所)

10:25-10:45 局地的豪雨の予測に向けて (川畑拓矢 気象研究所)

10:45-11:05 広域陸域水循環の理解に向けた陸域データ同化研究 (鈴木和良 海洋研究開発機構地球環境観測研究センター)

11:05-12:00 討論

12:00-13:30 昼休み・昼食

セッション5 グループ討論・全体討論

13:30-15:00 グループ討論

15:15-15:30 【討論の話題提供1】 季節平均場から季節進行の再現性に向けて (梶川義幸 ハワイ大学 IPRC)

15:30-15:45 【討論の話題提供2】 降水予測精度向上のための土壌水分観測ネットワークの構築 (萬和明 京都大学大学院工学研究科)

15:45-16:30 全体討論